

## 第四章 精神と宗教

4 - 1	精神とは - ドイツ観念論とキリスト教思想 -	10/5
4 - 2	生の次元論と精神 - 新しい次元の創発性の理論化に向けて -	10/19
4 - 3	社会システム論とパラドックス - ルーマン -	11/2, 9, 16
4 - 4	カオスと自己組織化	11/30, 12/7
4 - 5	まとめ	12/14

4 - 4 カオスと自己組織化

1	カオスと全体論	2	カオス理論と神	3	まとめ
---	---------	---	---------	---	-----

3 まとめ

## 1 . 次元論の構想

Paul Tillich, *Systematic Theology*. vol.3, The University of Chicago Press 1963

the inorganic dimension / the organic (biological) / the psychological / the spirit-the historical  
the multi-dimensional unity of life (12)

The theological problem arising from the differences between the organic and the inorganic dimensions is connected with the theory of evolution and the misguided attacks on it on the part of traditional religion. . . . The question of the source of the species of organic life is more serious. Here two points of view are in conflict, the Aristotelian and the evolutionary; the first emphasizes the eternity of the species in terms of their *dynamis*, their potentiality, and the second emphasizes the conditions of their appearance in *energeia*, actuality. Formulated in the following way, the difference obviously need not create a conflict: the dimension of the organic is essentially present in the inorganic; its actual appearance is dependent on conditions the description of which is the task of biology and biochemistry. (20)

## &lt;ポイント&gt;

- ・生の現実性（多様性と統一性）をいかに捉えるかという問題
    - 諸次元の独立性と人間存在における統一性
  - ・次元の現実化の順序、先行する次元の現実化という条件のもとで次の次元が現実化する（可能性の現実化と進化の過程）
  - ・精神の次元における生の運動としての宗教 = 生の自己超越性
- 2 . ルーマンのオートポイエーシスのシステム（次元の多様性と統一性）
- ・システムの閉鎖性と開放性
  - ・諸システムの階層構造と構造的カップリング
  - ・社会システム（コミュニケーション・システム）のパラドックスと脱パラドックス化としての宗教
- 3 . 新しい次元の創出とカオス理論

・新しい次元の創出と全体論（階層構造）

下位のシステムにおける複雑度の増大と不安定化、  
散逸構造における新しい高次の秩序・法則（全体論的）の生成

4．物質 生命 心 精神（宗教・「神」観念）

化学進化 意味

神（实在）

5．神は、精神の次元における高次の秩序の生成（自己超越性あるいは全体論的秩序の創出）として理解できる。自然的神。

高次の实在（シュライアーマッハー）

人間の精神性から神観念の必然的に帰結する。観念に到来する神。

<デイヴィス>

It makes redundant the idea of God-the-creator, but it does not rule out a universal mind existing as part of that unique physical universe: a natural, as opposed to supernatural God.

Similarly the entire physical universe would be the medium of expression of the mind of a natural God. In this context, God is the supreme holistic concept, perhaps many levels of description about that of the human mind.

But the holistic aspect of God reminds us again that however well the physicist may come to understand what the world is made of and how it is put together, the holistic features will not be encompassed by any purely reductionist conception. (223)

6．人間が神を作った。

7．精神における宗教と科学との関係づけ

8．これを、宗教システムから観察すると、諸システムの階層の創出というプロセス自体が神（实在としての）の摂理として見る事が可能になる。

神（实在）は「神」観念の現実化に向けて宇宙の進化の過程を方向付けている。観念に到来する神と人間の役割（人間の存在意味）

9．神が人間を創造した。

10．宇宙論的な神の存在論証

経験的事実・運動の存在

因果律（原因と結果の連鎖）

無限の禁止

第一原因（観念）

これを、神と言う。

宗教において使用される神という言葉の指示対象という意味での实在の神

第一原因という観念・神観念と、实在としての神との関係という問題

11．第一原因は、因果律という枠組みでの「原因」ではない。

連鎖の中の一つの項目ではなく、むしろ、連鎖全体の原因

神の観念

实在としての神

12．では、实在とは何か。神の实在性とはいかなる意味での实在か

<次年度へ>

・「宗教と科学」関係論の問題領域を統一的に展開すること。この問題領域に関して、議論の精密化と補足を行う。

1．関係基礎論

- ・次元論・形而上学
- ・言語論・实在論

2．関係史

- ・自然神学の展開
- ・ニュートン主義、進化論

3．実践的倫理的諸問題

- ・生命と環境